

■After 建築名称 下段: 英語名	むさしのエコreゾート MUSASHINO eco reSort		
建築用途	大分類 その他	小分類 ごみ焼却場(環境啓発施設)	
改修設計者	水谷俊博建築設計事務所	URL	After 減築による切断面がそのままファサードとなった外観 撮影者 提供: 水谷俊博建築設計事務所 提供者
所在地	東京都武蔵野市緑町3-1-5	Google Map	
改修年	2020年		概要 after 耐用年数を迎えたごみ処理施設の建て替えに伴い旧清掃工場を環境啓発施設としてコンバージョン
建築規模	構造: 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造、鉄筋コンクリート造		
掲載書誌	新建築2020年12月号、JIA建築年鑑2021-2022、日本建築学会作品選集2023		
関連事項	ARCASIA AWARDS FOR ARCHITECTURE 2022 Honorary Mention、令和4年度 日事連建築賞 優秀賞、第48回東京建築賞 東京都建築士事務所協会会長賞 一般二類部門 最優秀賞 重賞、アルカシア建築賞		
■Before 建築名称	武蔵野クリーンセンター		概要 before 武蔵野市のゴミを単独処理するごみ焼却場
建築用途	大分類 その他	小分類 ごみ焼却場	
■写真 Before ゴミ収集車の搬入経路だったプラットホーム	After 旧プラットホームをリノベーションした大空間	After 旧事務所棟の1階を改修したカフェスペース	
			
撮影提供者	提供: 水谷俊博建築設計事務所	撮影提供者	提供: 水谷俊博建築設計事務所
■リノベーション内容	キーワード 減築	内容 役目を終えた(言い換えれば相当量のゴミになろうとしていた)既存のゴミ処理施設を部分的に保存・コンバージョンすることで、ゴミ清掃工場としての特異な建築の姿を残しながら市民が自由に集まり活動できる交流施設(環境啓発施設)として蘇らせた公共施設。 施設の特徴は、既存のゴミ清掃工場がもつ多様な複合性を拾い上げながら建築全体にゆるやかに連続した空間をうみだしている。旧施設では閉ざされていたプラットフォーム外のスペースとの界壁を部分的に撤去することで、施設内や周辺の街へと開放し、隣接する武蔵野クリーンセンター(現在のゴミ処理施設)と一体的に地域とつながる施設構成となっている。 人々のための学習・産業・集いなどを含め、社会の環境問題にいわばフィジカルに(ゴミを通して)つながることのできる、“まちづくりとの連携”の拠点となる新しい建築のあり方が展開されている。	
	■備考		
■作成者 氏名/所属	水谷俊博/水谷俊博建築設計事務所、武蔵野大学		管理者 記載